

仮想アース Crystal E の導入(28)(HP 収載)

—仮想アースの製作(9)—

1. 始めに

前報(26)に引き続き、仮想アースを製作します。本報も、Crystal E の報告ではありませんが、整理の都合上、仮想アース Crystal E の導入シリーズに含めて報告いたします。

2. 仮想アースの製作と試聴

前報(27)において、これまでに製作した仮想アースの再配分を行いました。その結果、前報(26)で製作した、水を媒体とする 6A 号機は効果が認められなかったため解体することになり、この容器の活用を図ることにしました。

方針としては、ネット上で盛んに製作されている木炭を主原料とし、これに前報(19)で使用したグリーンカーボランダムを混合してみます。

木炭は粉碎し、グリーンカーボランダムと目分量で 3 : 1 の割合で混合し、瓶に充填したのち、銅板を埋め込み、無垢の銅線のリード線を引き出します。なお、瓶は蓋がないので、木炭とグリーンカーボランダムがこぼれないようステンレスタワシで上面を軽く覆います。本機を仮想アース 7 号機とします。



試聴は、EMT981 における CD 再生と Brooklyn DAC+経由のアナログ再生と BPODCH の再生で行います。



EMT981 接続



Brooklyn DAC+接続

3. 仮想アースの試聴結果

EMT981 における CD 再生では、フランソワ＝フレデリック・ギィ（ピアノ）とグザヴィエ・フィリップ（チェロ）のベートーヴェンのチェロソナタ集を聴きましたが、仮想アースを EMT981 のアースポイントに接続しますと、チェロのボウイングが明晰になり、ピアノ打鍵がクリアになって余分な響きがなくなります。

Brooklyn DAC+経由のアナログ再生の場合、アッカートのパガニーニの 24 の奇想曲では、すでに LP-12 と ZANDEN MODEL 120 に Crystal E を接続していますので、ボウイングの表現など、かなりのレベルに達していますが、Brooklyn DAC+に仮想アースを接続しますと、一層その傾向が助長され、この曲のスリリングなまでの醍醐味が味わえます。倍賞千恵子では、同様に、Brooklyn DAC+に仮想アースを接続しますと、ボーカルは一層のびのびと歌い、バックの伴奏が明晰になります。

Brooklyn DAC+経由の BPODCH の再生では、キーシンとヤンソンス指揮のベルリンフィルのリストのピアノ協奏曲 1 番を視聴しましたが、前報(27)で報告しましたように再生経路の DA-3000 にはすでに 3 号機と 6B 号機がセットされていますので、オーケストラの音の分離もピアノの打鍵の明晰さや左手の低域の沈みこみも確保されています。さらに Brooklyn DAC+への仮想アースを繋ぎますと、さほど顕著ではありませんが、DA-3000 における 3 号機と 6B 号機の効果を上乗せするような効果が認められました。

以上から、前報(27)で設定した、他機と共用になっている 3 号機と 6B 号機を変更して、今回の 7 号機を EMT981 専用とします。

4. まとめ

木炭とグリーンカーボランダムを主原料とした仮想アースの製作を行い、それらの効果の確認ができました。

以上